

3 大豆

区 分	持続性の高い農業生産方式の内容	施用の目安等
有機質資材 施用技術	<p>○たい肥等有機質資材施用技術 土壌診断に基づき、適切に完熟たい肥等を施用する。</p> <p>○緑肥作物利用技術 緑肥作物（ソルゴー等）を栽培し、作付け前にすき込む。</p>	1～2 t/10a
化学肥料 低減技術	<p>○有機質肥料施用技術 有機質肥料（油かす等）を用いた施肥体系とする。</p>	化学合成窒素量 1.0kg/10a 以内
化学農薬 低減技術	<p>○機械除草技術 除草機械により雑草（畦畔での害虫発生助長植物も含む）を駆除する。</p> <p>○生物農薬利用技術 生物由来の有効成分である農薬の利用により病害虫を駆除する。 ・生物農薬：B T剤(ハメゾトリ)など</p> <p>○対抗植物利用技術 土壌害虫密度を低下させる植物を栽培することにより害虫被害を軽減する。</p> <p>○フェロモン剤利用技術 フェロモン剤の利用により害虫の大量誘殺や交信を攪乱させる。 ・リトルア剤(ハメゾトリ)など</p>	化学合成農薬成分回数 5成分以内
<p>その他の留意事項 大豆は、石灰を多量に吸収するとともに根粒菌着生にも関係するので苦土石灰を 100～150kg/10a 施用する。 収穫後の残さは適切に処分する。</p>		